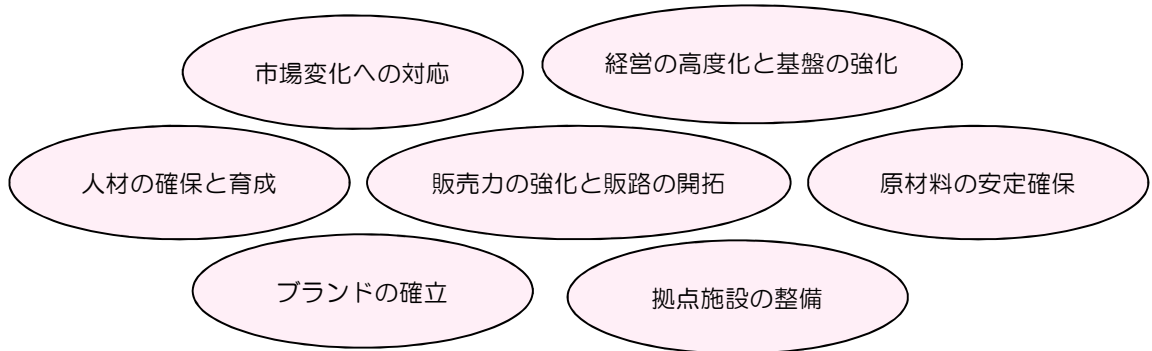


### Ⅲ 工芸振興センター事業概要



# 1 令和4年度 事業体系

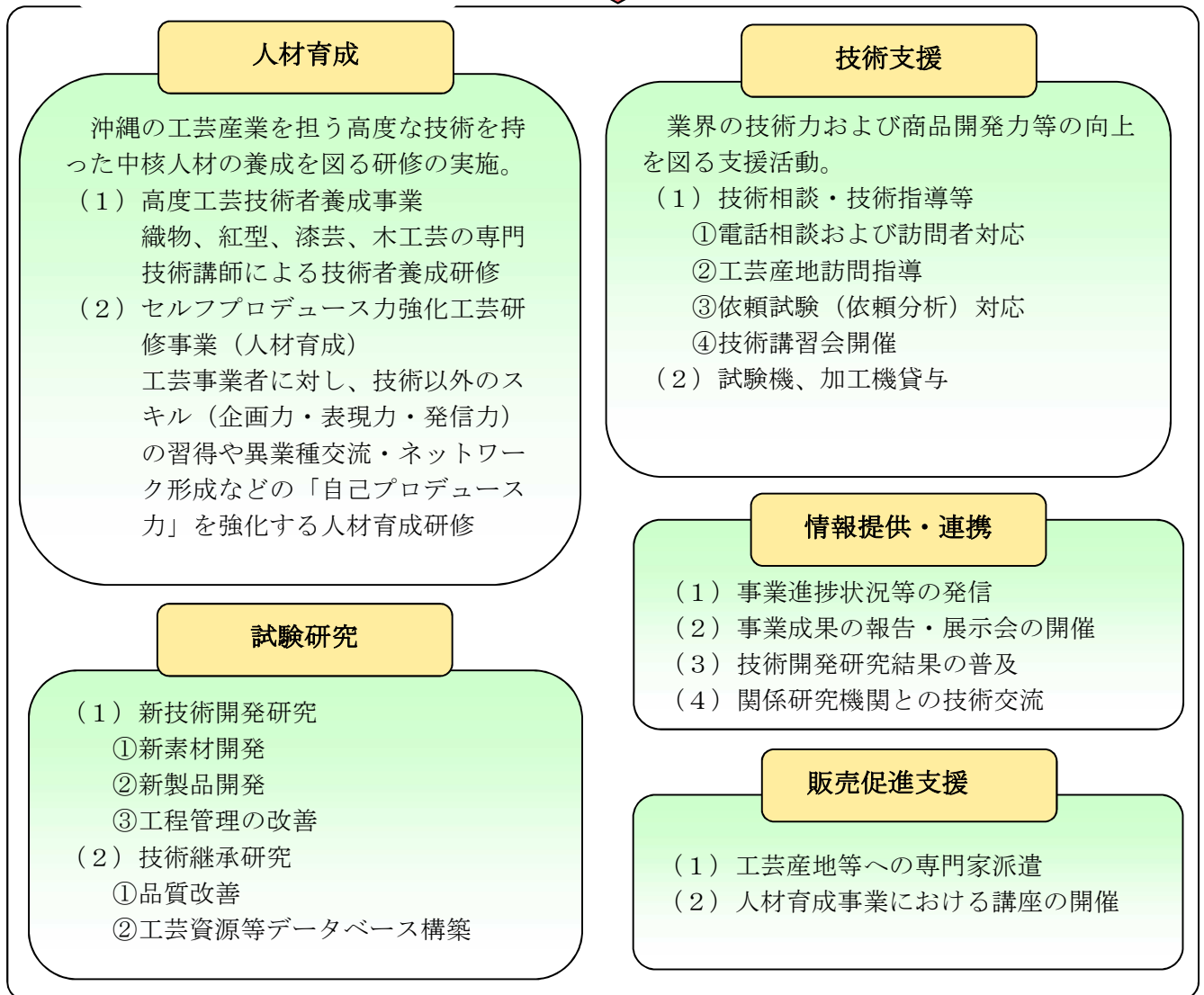
○沖縄県の工芸産業における課題



○工芸振興センターの役割

「総合的な工芸産業技術支援機関」としての機能

令和4年度 事業体系



## 2 令和4年度工芸振興センター主要事業

### (1) 高度工芸技術者養成事業

#### ① 目的

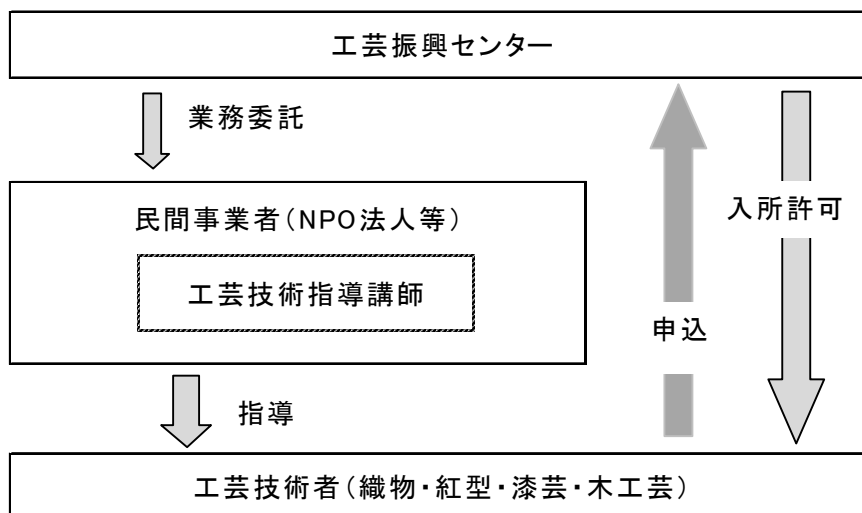
織物、紅型、漆芸、木工芸の各分野における若手工芸技術者に対して技術研修を行い、工芸産業を担う高度な技術を持った中核人材（技術者）の養成を図る。

#### ② 内容

上記4分野の各専門技術講師による技術者養成研修を研修カリキュラムに沿って実施する。研修期間は11ヶ月で、技術研修のほかに、経営・流通講座や外部講師による専門技術講習会も併せて実施する。研修生は公募によりそれぞれ5名程度（計20名程度）を募集し、選考のうえ決定する。

昭和49年度から平成24年度までは「工芸技術研修指導」として、県（当センター）が直接事業を実施していたが、平成25年度から事業のスキームを一新し、研修運営の委託により実施している。

#### ③ 事業スキーム



#### 【研修概要】

織物…製糸技術、染色技術、<sup>たてがすり</sup>経<sup>よこがすり</sup>・<sup>もんおり</sup>緯<sup>もんおり</sup>技術、琉球藍染色技術、各紋織技術  
および<sup>おびじ</sup>帯地<sup>きじゃく</sup>・着尺製作技術等

紅型…道具づくり、色見本製作、図案技術、<sup>かたぼり</sup>型彫<sup>かたぼり</sup>技術、染色技術および  
帯地・着尺製作技術等

漆芸…道具づくり、<sup>きゅうしつ</sup>髹<sup>きゅうしつ</sup>漆<sup>きゅうしつ</sup>技術、<sup>かんしつ</sup>乾<sup>かんしつ</sup>漆<sup>かんしつ</sup>技術、<sup>ろいろ</sup>呂色<sup>ろいろ</sup>技術、<sup>ぬりたて</sup>塗立<sup>ぬりたて</sup>技術、加飾技術等

木工芸…道具づくり、<sup>ぞうがん</sup>加工機械操作、<sup>ぞうがん</sup>象嵌<sup>ぞうがん</sup>技法、<sup>ひきもの</sup>塗装、<sup>あしもの</sup>挽物・脚物製作技術等

#### 【事業実績】 令和4年度：12人

〈参考〉研修累計実績：1,177人（昭和49年度～令和4年度）

## (2) 工芸技術指導

### ① 目的

工芸産業を担う技術者の技術向上を図るため、センター職員による技術相談や技術指導を行うとともに、県内外の専門家による講習会の開催等を実施する。

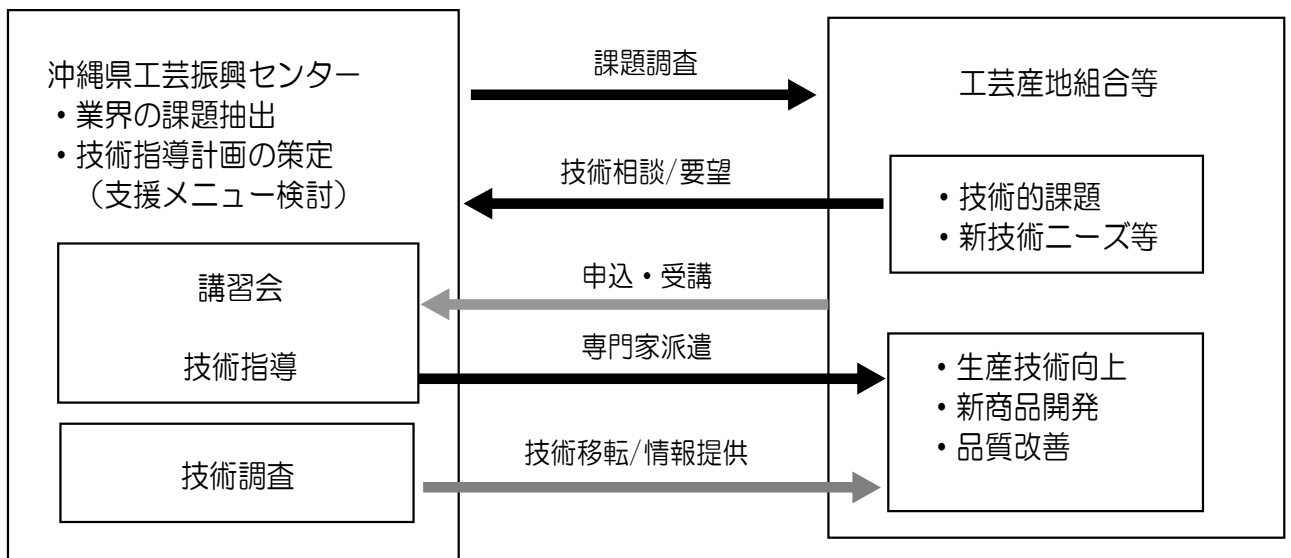
### ② 内容

染織・木漆工に関する原材料・加工技術・デザイン技術等について、個別の相談指導に対応するほか、産地ヒアリングや課題調査を行い、工芸産地組合や事業所のニーズ・要望に基づいて、課題解決のための技術指導及び講習会等の開催、専門技術者の派遣などを行っている。

また、事業者等からの依頼を受けて、染色堅牢度や材料の物性及び接着などの試験分析を行っている。

さらに、工芸振興センター内にある染織関係、木工関係の機器・設備について、工芸従事者が利用できるよう開放している。（有料にて利用可）

### ③ 事業スキーム



### (3) セルフプロデュース力強化工芸研修事業（人材育成）

#### ① 目的

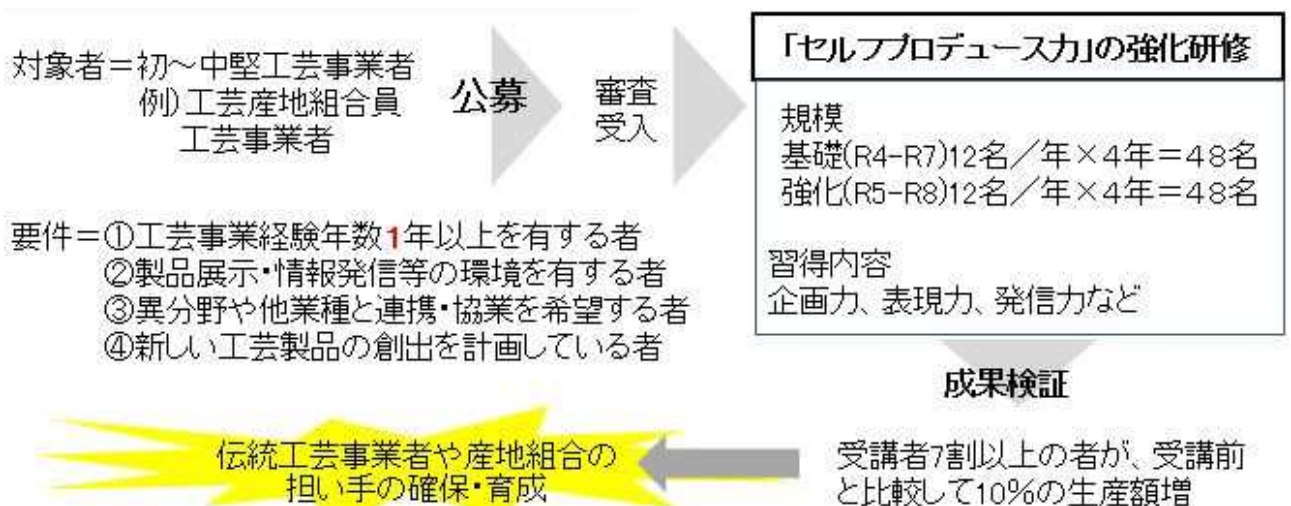
工芸事業者に対し、技術以外のスキル（企画力・表現力・発信力等）の習得、市町村の枠を超えた俯瞰的で公益性のあるスキル（異業種交流、ネットワーク形成等）を習得させる「自己プロデュース力」を強化する人材育成を実施する。

#### ② 内容

PDCA サイクルの考えのもと、2年を1単位とした人材育成を実施する。

1年目では基礎=PLAN（計画）・DO（実行）、2年目は強化=CHECK（検証）・ACTION（自走）とした内容である。

#### ③ 事業スキーム



## (4) 工芸研究

### ① 目的

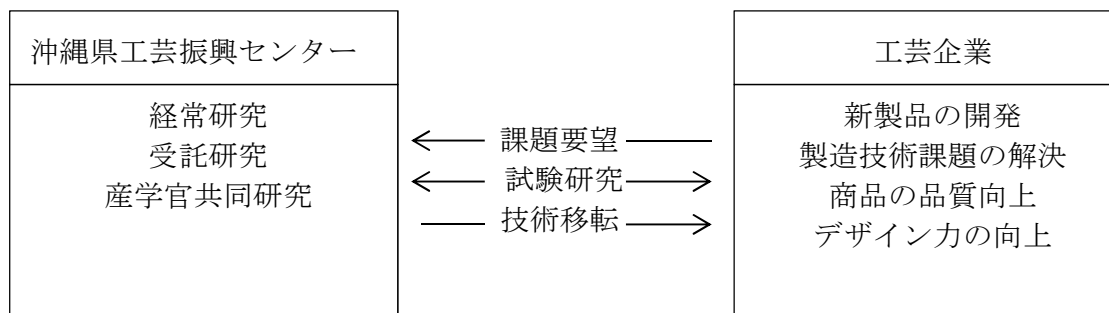
工芸に関する試験研究を行い、その成果の指導普及により生産技術の向上及び工芸製品の品質の維持改善を図り、工芸産業の振興発展に寄与する。

### ② 内容

染織、漆芸、木工芸を対象とした技術改善や改良、素材開発、製品開発などの試験研究を実施する。

技術情報の収集、県内外の関係機関との技術交流を実施する。

### ③ 事業スキーム



## 高度工芸技術者養成事業の研修生累計実績

(単位:人)

年度	修了者数	一般研修					特別研修				
		織物	紅型	漆工	木工	小計	織物	紅型	漆工	木工	小計
S49～H24	1006	152	54	123	173	502	141	163	84	116	504
H25	15	5	2	4	4	15					0
H26	21	5	4	6	6	21					0
H27	19	5	6	3	5	19					0
H28	18	3	6	1	4	14			4		4
H29	17	5	4	4	4	17					0
H30	17	4	6	4	3	17					0
H31	13	1	3	2	4	10	2		1		3
R2	20	4	6	3	3	16	1		2	1	4
R3	19	2	5	4	5	16	3				3
R4	12	2	3	3	4	12					0
合計	1,177	188	99	157	215	659	147	163	91	117	518

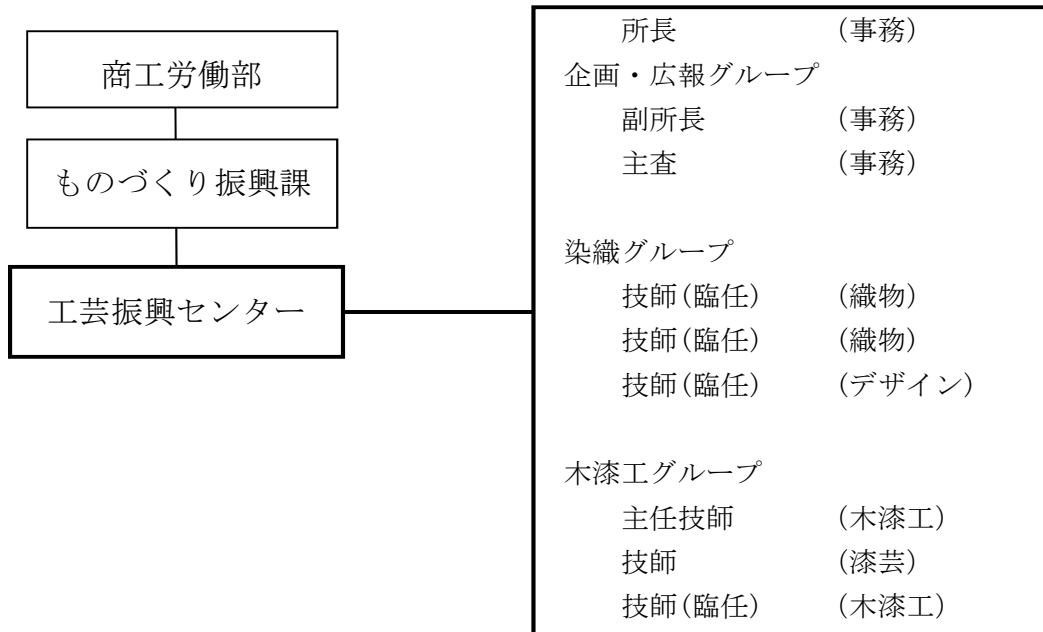
※S49～H24は工芸技術研修指導



### 3 組織・予算

#### (1) 組織及び職員配置

職員数 9



#### (2) 令和4年度工芸振興センター予算総括表

(単位：千円)

(目) 工芸振興センター費	<u>238,743</u>		
(事項) 工芸振興センター運営費	<u>201,705</u>	(事業) 運営費 (工芸振興センター)	<u>12,943</u>
		(事業) 旧工芸振興センター跡地整備事業	<u>188,762</u>
(事項) 工芸研究費	<u>878</u>	(事業) 工芸研究費 (単独)	<u>878</u>
(事項) 工芸技術支援費	<u>36,160</u>	(事業) 工芸技術指導費	<u>1,682</u>
		(事業) 高度工芸技術者養成事業	<u>22,537</u>
		(事業) セルフプロデュース力強化工芸研修事業	<u>11,941</u>